

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 26 年度

事業所番号	2775502418		
法人名	社会福祉法人 ほのぼの会		
事業所名	グループホーム桜ヶ丘		
所在地	大阪府八尾市桜ヶ丘1丁目20番地		
自己評価作成日	平成 26年 4月 1日	評価結果市町村受理日	平成 26年 7月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvsoCd=2775502418-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 26年 6月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者ひとりひとりの生活習慣や能力に配慮し、できる限り主体的な生活をしていただけるよう家事全般へ関わる機会をつくり、役割と生きがいを持って暮らせるように援助している。また、手作りの食事にこだわり、毎食美味しく食べていただくことで、食べることの楽しみを生活のひとつとして感じられる食事の提供を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅から徒歩8分という交通の便の良い立地条件に建てられた、開設10年目の2ユニット18名定員のグループホームです。ホーム周辺は、マンションが立ち並ぶ中にも農園が残っていたり、公園がある等、緑にも恵まれた地域です。ホームでは、特に「美味しい食事を提供すること」を目標にし、毎日職員が心こもった料理やおやつを作っています。また、毎月の行事食の支援は、利用者の楽しみと生きる意欲に繋がっています。中庭に実なる木や家庭菜園があり、食材にする楽しみもあります。管理者、職員は洗濯や料理等の家事を利用者と共に実践していくことで、利用者一人ひとりの役割や生きがいにつながることを目指しています。運営推進会議に家族が参加しやすいよう、輪番制にする等、家族の意向も大切にしています。管理者、職員は明るく優しい声かけで利用者へ接しており、利用者は歌を歌う等、アットホームな雰囲気のある事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所当初より、『家庭的な雰囲気のかで利用者の個性を生かし、「自由」「尊厳」のある日常生活を過ごせるよう、継続的に自立支援を行います』を理念として掲げ、利用者の個性を大切にしたいサービス提供を心掛けている。	管理者や職員は、理念を事業所の運営、サービスの実践上重要なものと認識しています。『家庭的な雰囲気のかで利用者の個性を生かし、「自由」「尊厳」のある日常生活を過ごせるよう、継続的に自立支援を行います』を理念とし、玄関やスタッフ詰所内に掲示しています。スタッフ詰所には職員の目標「若さ・笑顔・思いやり」を掲げ、サービスの実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ホームのある場所は、周囲をマンションで囲まれているような環境で、その住人との交流は極めて難しい。しかし、すぐ近くに公園があり毎朝散歩に利用しているため公園利用者と顔見知りになり挨拶しあう関係などは出来ている。	ホーム周辺はマンションが立ち並び、町会はありませんが、日課となっている近隣公園への散歩で出会った方等と挨拶や交流が続いており、利用者の楽しみになっています。ホームの隣には大きな農園があり、季節ごとの野菜や花が育っています。代々付き合いのある農園管理者から、採れたての野菜をもらい、利用者も喜んでいきます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	見学や入居相談といった形で来所される方に対し、必要に応じて介護上のアドバイスやその他の介護サービス等に関する説明などを行うこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの取組内容を報告するとともにどんなことに困っているか、どうしようとしているかを会議に提起し、色々な提案を受けたりアドバイスを頂くなど、活用している。	運営推進会議は2カ月に1回、年6回の開催があります。参加者メンバーは、民生委員、市職員、家族、事業所職員、管理者です。会議内容は、運営状況、行事等の報告、今年目標、達成状況等の説明、家族からの意見や要望、職員より現状報告等をしていません。家族は輪番制で会議に参加し、積極的に意見や質問をするなど、貴重な情報交換の場になっています。管理者は更に家族の意見、要望を得られるよう複数家族の参加等を検討しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営上のことについて行政担当者の意見を聞きながら進めるようにしている。また、家族とのトラブルが予想される場合などもホームの意向の説明等行い円滑な解決が図れるよう指導を仰いでいる。	市担当者とは、都度連絡をとっています。小さな事故の場合も、事故報告書を提出しています。市職員より、日頃の取り組みや感染症等を運営推進会議等で積極的に発信してはどうかと助言を受けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>フロアー玄関のシステム変更は困難なことから、利用者の状況に応じた対応をするように心がけている。また、利用者への声のかけ方など日頃から細かい点に気を配り威圧感を与えないよう注意している。転倒のリスクの大きい方の履物に鈴をつけるなどの対応をしております家族様へ同意を得ている。</p>	<p>管理者は、身体拘束をしないケアを目指し、毎月のフロア会議において「高齢者虐待と権利擁護」「尊厳」「言葉遣い」等、研修年間計画を立てて実施しています。職員は、研修で学んだことを「振りかえりと気づき」として管理者へ報告書を提出し、知識等を身につける仕組みがあります。職員は細やかに気配りした優しい言葉遣いで利用者に接しています。身体拘束をしないケアを目指していますが、玄関に通じる各ユニットのドアは施錠をしています。暗証番号を利用者からも見えるよう掲示する等、工夫をしていましたが、現在は中止をしています。外出願望の強い利用者については、職員が察知し、さりげなく同行する等、支援しています。</p>	<p>玄関に通じるドアの施錠については、今後、職員間で話し合い、開錠に向けて検討することが望まれます。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>利用者の全身状態のチェックを、日々の入浴担当に課していて、気付いたことは必ず報告するように教育している。また、報告を受けて不審な点があれば原因を究明するようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族からの援助が得られにくい方へは、生活支援のためのサービスがあることを伝え利用される場合の援助を行うこともある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	これまでの反省をふまえ、家族等の疑問には事前に十分な説明を行うこととし、契約上重要な事項は特にしっかりと伝えることを心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度より、運営推進会議に必ず家族様に参加していただき、色々な意見や要望等を出していただいている。また、頂戴した意見や出された疑問などには真摯に応えるよう努力している。	玄関に意見箱を置き、『意見、感想、要望をお書きください』と記載した用紙も備えています。家族が面会時には、主任、副主任が必ず挨拶し、利用者の様子等を伝え、意見や要望を聞いています。今年度より、運営推進会議に家族の参加を得て、意見や疑問点を聞き丁寧な対応をしています。管理者は、来訪が稀な家族へも、今後は積極的に情報提供をし、親交を深めていく予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回は、各フロアごとの会議の場を作っている。各職員はその場にて自分の意見を発言したり疑問を提出するなど現場責任者と意見交換したり情報の共有を図るなどの機能をさせている。	毎月定例のフロア会議を開催し、職員の意見を聞いています。職員は、自由に発言しています。毎回の詳細な記録から、話し合いの内容が確認できます。また、フロア会議と併せて内部研修を毎月開催しており、研修受講者の研修報告から職員の前向きな所見、今後の意向等を把握しています。さらに、職員の契約更新時には、管理者、主任、副主任、事務局長が職員と一緒に面談し、要望等を聞く機会とするなど、管理者は、職員の要望、意見を運営に生かすように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員は、現場責任者と定期的に個別面接を行い、就業中の態度の評価や不十分な面の改善指導を受ける場が作られている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場での内部研修を年間計画のもとで実施し職員として必要な知識や技能を学ぶ機会を作っている。外部研修に関しては、事業所として入手した情報を全体化し自主的な参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム協議会が開催する集まりには必ず参加している。他の事業所での取り組みや課題が共有できることで、自分の事業所の運営にも役立つことが多い。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず家庭訪問を行い、ご本人の情報を直接入手するとともに、ご本人に会うことで訪問者との面識ができ入居初期の不安の軽減につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の場や家庭訪問の折に家族様の抱えている問題や心配等を聞き、サービス提供上実施できることとできないことなどを具体的にお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時や家庭訪問の折に、家族やご本人が抱える問題を理解し必要な範囲で他のサービス利用等への情報提供等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方の持っている力ができるだけ発揮できるよう食事づくりや日常生活行為の中で本人のできることを支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居によって家族との関係が切れたり希薄にならないよう無理のない範囲で面会の機会を持つことを推奨しており、家族だけが果たせる役割があることを伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の家族、兄弟、友人等の面会を推奨しており、来所された場合ゆっくり過ごしていただけるよう支援している。当方の直接の援助による外出はできていないが、家族等との外出機会を持っていただくことを進めている。	管理者は、なじみの関係が継続するよう、認知症ケアに大切なことを認識し、家族や自宅の近所の友人等の来訪を歓迎し、職員にも徹底しています。家族や友人等の来訪時には、テーブルと椅子を運び、お茶の接待もする等、ゆったり過ごせるように努めています。家族の協力で定期的に外食、買い物、散歩、自宅に外泊する利用者がいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間での相性の良し悪しを見極め、ひとりひとりが気持ちよく過ごせるように食事の席を決めたり余暇のおしゃべりを楽しめる環境をつくるなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所としてできる範囲の援助は行うことを考えている。入院等のあと亡くなられた連絡をいただくときは、ご葬儀に臨席させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の前後に、ご本人やキーパーソン担当されていたケアマネなどに情報を頂き、本人・家族の意向を把握するよう努めている。	管理者は、利用者の思いや意向を把握することが、本人本位のケアの基本であることを良く認識しています。初期の入手情報や、入居後の生活の中で職員が得た情報を一枚のシートに分かり易く記載しています。利用者の写真を中心に、生まれ、今までの経緯、仕事、好きな食べ物、得意なこと、健康状態等利用者の特色、要望を記入して日常のケアに生かしています。新たに把握できたことは、その都度追加しています。入居後も3ヵ月毎に決められた書式(再アセスメントシート)により状況確認をしています。家族の気づかない色々の情報を、職員から聞くことがあると家族から感謝の言葉があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後に本人あるいは家族様にご本人の生活歴や楽しみ等を聞き生活の中で活かせるよう工夫している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の意欲や能力を把握するとともに、その変化に速やかに気が付くよう日々の申し送り等で情報の共有を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にご本人および家族に対し要望や意見等を聞く機会を設けている。その上でフロアごとのカンファレンスを持ってすべての職員がかかわりながらひとりひとりに合った介護計画を作成している。	介護計画書は、6か月毎に利用者、家族の意見・要望を確認し、見直しをしています。再アセスメント、モニタリング、カンファレンスを3か月毎に実施しています。計画作成者は、担当者会議を開催し、関係者の意見を聞きながら、利用者一人ひとり課題に即した介護計画書を作成しています。介護計画書の生活全般の解決すべき課題には、利用者の言葉がそのまま記載されたものがあります。介護計画書は家族、利用者に説明し、同意を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調の変化や行動の変容がみられたことを記録に残すようにしているが、記録内容からひとりひとりのその時の状態像がつかめるような記録の間で至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者に経済的な問題が発生した場合の相談援助として、生活保護申請の援助を行ったり、家族・身内の援助が困難な方には、日常生活支援サービスの利用を勧めたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の家族・兄弟・友人等との継続的なつながりを大切にし、施設入所によって孤立したり疎外されたりすることのないよう気を付けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療に理解と実績のあるかかりつけ医を推奨しており、定期的な往診を通して利用者の健康管理を行っている。24時間いつでも対応できる体制ができています。	利用者、家族の希望するかかりつけ医や医療機関に受診できるよう支援しています。主治医の定期的な往診、夜間や緊急時の対応も整備しています。かかりつけ医との連携を図り、指示を得ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との間で心身の状態その他の情報を共有し、必要があれば主治医へとつなげ適時・適切に医療対応ができる体制を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時には、介護職が付き添い、病状を伝えたり服薬情報を提供したり介護サマリーを作成し提供している。また、退院の調整に対しても、直接病院を訪問し、担当の医師あるいは看護師から必要な情報を得て受け入れ態勢づくりに生かしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	いままでに数名の看取りの実績があり、それをもとに現実にホームとして対応できる範囲等を事前に家族様に説明している。また、主治医の協力のもとで家族様にも納得のいく終末期を迎えられるよう努めている。	利用者の重度化により「医療連携体制加算に関する同意書」を作成し健康面、24時間相談体制、看取りに関する指針等について利用者、家族に説明し同意を得ています。主治医や訪問看護師の協力で終末期を迎えることが出来るように支援しています。職員は看取りについて、これまでも経験しています。	今後は、看取りの受け入れについて体制を整備し、マニュアル等を作成してはいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内の研修において急変時の対応の方法等を学ぶ機会を作っている。机上の学習が中心になるため、実践的な面では十分といえないところもあり実用性のたかい技術習得を課題としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会のない地域にあり、周辺住民との繋がりをつくりにくい環境にある。火災訓練を中心に独自で企画・実施をおこなっており、万一の事態のときにだれもが訓練で身に着けたことが活かせることを目標にして反復訓練を行っている。	災害時発生マニュアル、緊急時の連絡マニュアル等整備しています。昨年は3回の避難訓練を計画し実施しています。1回は消防署の協力を得て実施しています。管理者は訓練の反復が重要として今年度4回の訓練を計画しています。ユニットは施錠されていますが、警報発令時には自動開錠する仕組みとなっています。事業所内の階段下倉庫に水や食料、備品等を備蓄しています。スプリンクラー、消火器の整備がなされています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し、職員が指示的になったり威圧的になったりしないよう、日々の利用者の対応で気が付いたことは注意・指導している。	管理者はプライバシーの尊重、言葉使いや接し方について毎月研修しています。フロア会議では、利用者に対して尊重した態度で接しているかどうか、全職員で自分自身の振り返りや気付いた事などの話し合いをしています。職員は、利用者一人ひとりを尊重した丁寧な言葉かけをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、日常の排泄誘導やトイレ誘導などの場合でも、本人の意思確認を行いながら、表出された意思や感情、気分等に配慮して関わるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分の部屋に閉じこもったり疎外感を感じたりしないよう、声掛けは頻繁に行うようにしている。無理に離床させたりあるいは無関心にならないように利用者の状態等を考慮して関わっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の気に入った服装で過ごしていただくようにしており、事業所として規制はしていない。また、ヘヤースタイル等も本人や家族の意向を大切にしている。女性の場合は、習慣としてきた化粧等への支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方とメニューを考えたり調理の手伝いとはして野菜の皮むきやもやしのみげとりなどは毎日行っている。また、食後の食器拭き等も日課として定着している。	食材は業者が届けています。食事は3食ともに職員が手作りしています。食事準備は、利用者ができる範囲で行っており、野菜の皮むきや下準備、トレイ・お箸・コップ等の用意も一緒に行っています。利用者と職員は、絶えず笑顔で歌等を歌いながら、家庭的な雰囲気の中で楽しく食事作りをしています。利用者のリクエストにも臨機応変に対応し、利用者の誕生日には、希望を聞きながら食事の準備をしています。おやつ作りも毎日手作りです。行事として、花見弁当、流し素麺、敬老会でのお膳、手打ちうどん、お節料理等、季節毎に職員が準備しており、利用者、家族から好評を得ています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や一日を通しての水分摂取量などをチェック表に記入し管理している。また、利用者の嗜好を把握し苦手のおかずの場合、別のもの提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、口腔内の衛生状態に気を付けている。また、訪問歯科による定期的な口腔ケアを受けたり必要な治療を受けることを推奨している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	まったく立位のとれない方以外は、トイレでの排泄を基本に排泄介助を行っている。歩行の不安定な方で夜間のみポータブルトイレを使用される方もある。排泄チェック表を活用しそれぞれの排泄パターンに合わせて援助している。	排泄記録表を作成し、利用者一人ひとりのパターンを活かして、トイレでの排泄を目指しています。入居時に、オムツ対応だった方が、リハビリパンツ等に変更した利用者がいます。職員は、利用者にさりげなく声かけをする等、五感を働かせて支援しています。また、常にトイレが清潔で気持ち良く利用してもらえるよう、清掃にも気を付けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方へは、主治医から薬の処方があり服薬介助しているが、日々の排便状況を把握しながら細かく対応している。薬以外にセンナ茶の利用を行っている方もいる。また、食事量・水分量にも配慮している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は勤務体制の都合上制約があるが、基本的に隔日入浴を目標に実施している。	入浴は基本的に隔日となっています。季節のゆず湯、ハーブ湯、入浴剤等を使用し、入浴を楽しむ工夫をしています。入浴を好まない利用者には、少し間をおいたりして無理強いせずにさり気ない支援をしています。入浴には職員が付き添い1対1となる会話を大切にしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	昼夜逆転したり居室への閉じこ もりを防ぐため、一定の生活習慣 がつくられるよう援助している。 起床や就寝に関する時間的な目 安はつくるが、画一化したり強 制にならないよう注意している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	薬の取り扱いには特に注意し、 医師の指示に従って、ひとりひ とりに服薬介助を行っている。 服用薬の事前セットの段階から 服用していただくまでの間、間 違いや漏れ等がないか複数の目 でチェックするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	入居までのご本人の生活習慣 や職歴、趣味や特技などの情報 を集め、できることしたいこと が活かせるよう援助している。 逆に苦手なことなどを強要す ることのないよう注意している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。又、普段は 行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の 人々と協力しながら出かける ように支援している	外出機会は朝の散歩に限られて いるため、本人の希望に沿うた めに家族様の援助をお願いして いる。気分転換のための散歩、 外食や買い物、家族宅への外 泊を行っている家族がある。	毎朝交代で近くの公園まで散 歩に出かけています。季節の花 見行事として近隣の公園に出 かける機会があります。職員は 、利用者の重度化に伴い、外 出支援に至っていないことを認 識し、課題としています。家族 の協力を得ながら自宅への外 泊、外食や買い物等に出かけ ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の方が直接お金を所持することはできるだけ控えていただいている。どの部屋にも自由に出入りすることが可能なことから保管場所がわからなくなっても「盗られた」と訴えトラブルになる原因にもなるので、立て替え払いにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を掛けたいと要望される方はあり、家族様の了解のもとで電話での通話を援助している。現在、手紙を書いたり出したいと要望される方はいない。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間・居住空間ともに常に清潔で気持ちよく過ごせるよう定期的な清掃以外に、汚れていたらすぐにきれいにするよう配慮している。庭先の咲いている花をフロアーに飾ったり季節感を感じていただける工夫をしている。	ユニット入口には利用者、家族が靴を履きやすいように椅子を用意しています。美しいアレンジメントの花が、壁やテーブル等沢山飾られていて、家庭的ながら上品な雰囲気を感じます。緑の観葉植物も配置しています。リビングの真ん中には大きな窓や網戸があり、明るい採光や風がとおります。キッチンには中央に配置されており、ご飯の匂いや調理の音がして利用者と職員の楽しい声があふれています。広いリビングには食事用テーブル、ソファコーナー、レクリエーションコーナー、テレビコーナー等があり利用者はそれぞれゆったりと過ごしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>時には利用者同士で口論になることもあり、別々に過ごせるように窓辺のソファに移動したりして互いの視界に入らないよう配慮している。また、気の合う者でテーブルを囲んでゲームをしたり歌唱するなど居場所づくりに配慮している</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご自宅で使用していた家具や寝具を持ち込んでいただいたり、長年愛用していた品、馴染みの物などを身近に置かれることをお勧めしており、殺風景な環境にならないよう配慮している。</p>	<p>ベッド、エアコン、整理ダンスはホームが用意しています。入居時には、それぞれ思い出のダンス、椅子、テレビ、時計、キーボード、写真等自由に持ちこんでいます。家族との思い出の写真や小物を置き、職員が手作りした誕生日の色紙を飾り、居心地の良い工夫をしています。夜間安心のため足元ライトを設置しています。また、季節ごとの衣類などを保管する収納庫を別に用意する等して利用者の生活空間がゆったりとできる配慮があります。職員は毎日居室を清掃し、毎週収納庫を含め、整理整頓の点検を実施し、清潔に努めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりの食事席を決め、食事やおやつ等のときにそのつど迷わないように案内している。各部屋には表札を掛け、別にお名前を書いた飾り紙を貼ってわかりやすくしている。トイレも廊下等に案内表示を出しわかりやすくしている。		